シラバス参照

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー	RMGT3534		
科目名	インテリジェンス論２（ｾｷｭﾘﾃｨｻｰﾋﾞｽ）		
担当教員	茂田　忠良		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水２		
講義室	オンライン	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP7－C　［他者理解・倫理観・公共心］ 人間の行動の正誤に関する推論に正面から 取り組み、社会的な存在としての自己の行 動原理を獲得することができる。 DP1－E　［学識・専門技能］ 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し 利用することができる。 DP4－I　［理解力・分析力］ 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、 情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効 かつ円滑に行い、課題の解決につなげるこ とができる。 ■ＣＲコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連 C1　倫理的思考・社会認識（10%） E1　学識と専門技能（70%） I1　理解・分析と読解（20%）		
教員の実務経験	警察庁採用Ｉ種（現総合職）職員として34年余の公務員としての実務経験を有するが、その中で、インテリジェンスの主要分野であるヒューミント、シギント、イミントの全てを経験し我が国では極めて稀な実務経験を有しています。秘密保持義務があるので体験や知識を直截に教授することは出来ないが、実務経験を基礎として、公刊資料を活用して、真のインテリジェンスについて講義を行います。（第１～１５回。特に第１、１４回）		
成績ターゲット区分	■　成績ターゲット：能力開発の目標ステージとの対応 ３発展期　～　４　定着期		
科目概要・キーワード	現代インテリジェンスは、国家の安全保障に係わる活動ですが、組織論の視点からは、セキュリティ・サービス、フォーリン・インテリジェンス（対外諜報）及びミリタリー・インテリジェンス（軍事諜報）の三つに大別されます。セキュリティ・サービスの活動内容は、主としてカウンター・インテリジェンス、カウンター・サブバージョン。カウンター・テロリズムに分けられます。また、インテリジェンスは、方法論の視点からは主としてヒューミント、シギント、イミント、マシントの四つの分野で構成されています。 本授業では、フォーリン・インテリジェンス、ミリタリー・インテリジェンスとの対比でセキュリティ・サービスをより深く考察すると共に、これらに共通する方法論であるヒューミント、シギント、イミント及びマシントについて、活動事例、収集システムを取り上げて、インテリジェンス諸活動を具体的且つ理論的に考察します。 授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（オンデマンド型）を取り入れます。 ■キーワード：　インテリジェンス、セキュリティ・サービス、フォーリン・インテリジェンス、ミリタリー・インテリジェンス		
授業の趣旨	■　副題 インテリジェンスの主要分野であるセキュリティ・サービス、シギント、イミント、マシント		

	を中心に方法論・組織論を理解する。 ■ 授業の目的 安全保障関連業務の従事者にとって必須の真のインテリジェンスの姿を理解することにより、インテリジェンスの考え方を追究し、インテリジェンスの観点から世界の事象を理解し説明する能力を身に付けることを目的とします。 ■ 授業のポイント インテリジェンスは秘密保持義務が極めて高い活動分野であるため、「知っている人は語らない。良く話す人は実は良く知らない人」という世界です。その上、日本ではインテリジェンス組織が極めて弱小であるため、真のインテリジェンスを知る人も少なく、世間には似て非なるインテリジェンス本が溢れています。本授業では、インテリジェンス諸活動をセキュリティ・サービス、シギント、イミント、マシントを中心とする方法論・組織論の視点から考察することにより、インテリジェンスの真の姿を理解することを目指します。
総合到達目標	■ 20世紀、21世紀の国際政治の重要事象について、インテリジェンスの観点から説明できるようになる。 ・ 米海軍情報部極東課長による対日挑発提言（1940年）や米英コミント協力開始（1941年初）などを基礎として、日米開戦に至る米ローズベルト政権の対日行動について説明できるようになる。（第5回） ・ 日本軍の真珠湾攻撃について、日本領事館暗号の解読、帝国海軍の通信状況分析等によって、米国政府が何をどこまで知っていたかを説明できるようになる。（第６回） ・ 米ソ冷戦時代に核爆弾など戦略兵器に対する情報収集におけるインテリジェンスの役割を説明できるようになる。（第11、12、13回） ・ 現代のテロ対策におけるインテリジェンスの役割の基本を説明できるようになる。（第10回） ■ インテリジェンス事象ついて、セキュリティ・サービス、ヒューミント、シギント、イミント、マシントの方法論・組織論の視点から、考察し説明できるようになる。 ・ セキュリティ・サービスの任務と活動手法について説明できるようになる。（第1回） ・ ヒューミントにおけるリクルート手法、秘密諜報員、ハニートラップ、暗殺等、ヒューミントの活動手法の基本について説明できるようになる。（第２、３、４回） ・ シギントについて、世界最強のシギント機関NSAの組織やデータ収集システム、活動手法を説明できるようになる。また、テロ対策やサイバーセキュリティ対策におけるシギントの重要性を説明できるようになる。（第7、8、9、10回） ・ イミントについて、世界最強のイミント機関NGAの組織や画像収集システム、活動手法を説明できるようになる。（第11、12回） ・ マシントについて、戦略兵器に関する情報収集力を説明できるようになる。（第13回）
成績評価方法	■ 授業参加度及びリアクション・ペーパー14回（70%）：運用ルーブリックC１、E１、I１ （評価の観点）当該授業に参加・視聴していることを確認した上で、当該単元の理解度を測ります。また、質問・意見表明における積極性を評価します。 （フィードバック方法）リアクション・ペーパー課題についてのフィードバックは、履修生全員に対しては授業又はClassroom「ストリーム」において、個々人に対してはClassroom「授業」において行います。 ■ 授業内テスト1回（30%）：運用ルーブリックC１、E１、I１ （評価の観点）正誤問題により基礎知識の定着度合を確認します。 （フィードバック方法）ポータルで、正誤問題の解答及び解説を配布します。
履修条件	条件はありません。但し、インテリジェンス論１を履修していることが極めて望ましい。インテリジェンスについて基礎的知識を習得していない者は、「１」を履修していないと理解が難しい。
履修上の注意点	本授業は、20世紀の日本史と世界史について全く知識がないと理解が困難です。従って、高校の日本史教科書（明治維新以降）と世界史教科書（19世紀以降）の部分をしっかり読み直しておくことを勧めます。高校の教科書を持っていない人は、中学生の歴史の復習でも結構です。 次の国の位置と首都の名前を知らない人は、世界地図で調べておくこと：フィンランド、ノルウェー、アイルランド、ベルギー、クロアチア、ギリシャ；トルコ、キプロス、イスラエル、レバノン、シリア、ジョルダン、イラク、サウディアラビア、イエメン、オマーン、アラブ首長国連邦、イラン、アフガニスタン、パキスタン；エジプト、スーダン、ケニア、ジンバブエ、ニジェール；メキシコ、キューバ、バハマ、ペルー；オーストラリア、ニュージーランド、タイ、ミャンマー、ヴェトナム、シンガポール、マレーシア、フィリピン、台湾。
授業内容	回 / 内容 1 / ①授業テーマ 導入、方法論・組織論序論、セキュリティ・サービス ②授業概要 授業の主題、内容、構成、成績評価方法について説明を行います。 担当教員の実務経験を踏まえて、特にインテリジェンスの方法論と組織論に力点をお

		いて講義します。 　実務家が考えるインテリジェンスの常識を理解した上で、インテリジェンスの方法論と組織論の諸原則、セキュリティ・サービスによる主な防諜活動の手法を説明できるようになる。（C１・E１・I１） ③予習（120分） 　Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 　配布資料を再読して授業を振り返り、インテリジェンス経験者にとっての常識、インテリジェンスの方法論と組織論の諸原則、セキュリティ・サービスの基本的手法、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。
	2	①授業テーマ 　ヒューミントの技法・協力者獲得 ②授業概要 　ヒューミントにおける基本技法であるエージェントのリクルートについて公刊資料を基に理解し、エージェントのリクルート過程における基礎調査、接触、そしてリクルートの内的要因（動機MICE）の概要を説明できるようになる。（C１・E１・I１） ③予習（120分） 　Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 　配布資料を再読して授業を振り返り、ヒューミントの工程表、基礎調査・接触・獲得に各過程における技法、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：吉野準『情報機関を作る』
	3	①授業テーマ 　「秘密諜報員」 ②授業概要 　諜報工作官の民間人偽装の著名な実例を理解することによって、ヒューミント偽装手法としての米国NOCやロシアILLEGALの特徴と諜報活動における意味を説明できるようになる。併せて、外国公館と外交官偽装工作官に対する任国セキュリティ・サービスによる一般的な監視手法を説明できるようになる。（C１・E１・I１） ③予習（120分） 　Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 　配布資料を再読して授業を振り返り、米国のNOC、ロシアのイリーガルの特色、長所短所、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：エドモンド・スー・ホー（豪甦）『NOC』
	4	①授業テーマ 　ハニートラップと暗殺 ②授業概要 　2004年上海総領事館における電信官自殺事件で注目されたが、ハニートラップは古典的なインテリジェンスの手法である。そこで、主として日本が標的とされたハニートラップを題材として、ハニートラップの特徴とこれへの対処法について説明できるようになる。更に、古典的なインテリジェンスの手法の一つである暗殺の意義について説明できるようなる。（C１・E１・I１） ③予習（120分） 　Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 　配布資料を再読して授業を振り返り、ハニートラップの実態と対処法、暗殺の実態、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：黒井文太郎『日本の情報機関』他
	5	①授業テーマ 　日本軍による真珠湾「奇襲」（１）：日米開戦に至る道とマッカラム覚書 ②授業概要 　ローズベルト大統領が日本軍の真珠湾攻撃を事前に知っていたか否かについては争いがあるが、米海軍情報部マッカラム極東課長による「行動提言」覚書（1940年）と米英コミント協力の開始（1941年初）を考察することにより、日米開戦に至るローズベルト政権の対日行動の基本を説明できるようになる。（C１・E１・I１） ③予習（120分） 　Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。

		特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 　配布資料を再読して授業を振り返り、ローズベルト政権による戦争準備、1941年初に始まる米英コミント協力、1941年初の米英高級参謀会談、マッカラム覚書の要点、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：東条由布子編『大東亜戦争の真実』（東京裁判における東条英機の宣誓供述書）、瀬島龍三『大東亜戦争の実相』、渡辺惣樹『誰が第二次世界大戦を起こしたか』他
	6	①授業テーマ 　日本軍による真珠湾「奇襲」（２）：対日シギントの実態 ②授業概要 　前回授業で得た知識の上に、米国の公開資料によって、日本の大使館暗号と領事館暗号の解読状況、日本海軍Ｄ暗号の解読状況、日本海軍通信のトラフィック分析状況を考察することにより、真珠湾「奇襲」について自分の考えを説明できるようになる。（Ｃ１・Ｅ１・Ｉ１） ③予習（120分） 　Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 　配布資料を再読して授業を振り返り、米国による日本の海軍暗号の解読状況、外交暗号の解読状況、領事館暗号の解読と吉川猛夫に対する米当局の監視状況、海軍通信のトラッフィック分析の状況、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：吉川猛夫『私は真珠湾のスパイだった』
	7	①授業テーマ 　米国国家安全保障庁（１）：概観 ②授業概要 　世界最強のシギント機関である米国の国家安全保障庁NSAの概要を理解して、その任務、UKUSA協力関係、第三国協力関係、シギント戦略について説明できるようになる。（Ｃ１・Ｅ１・Ｉ１） ③予習（120分） 　Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 　配布資料を再読して授業を振り返り、NSAの概要、UKUSA協力関係、第三国関係、シギント戦略、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：茂田『米国国家安全保障庁の実態研究』（以下、第10回授業まで同じ。）、茂田『米国における行政傍受の法体系と解釈運用』
	8	①授業テーマ 　米国国家安全保障庁（２）：21世紀の収集態勢 ②授業概要 　米国国家安全保障庁がUKUSA諸国と共に構築した21世紀のシギント収集態勢の概要を説明できるようになる。（Ｃ１・Ｅ１・Ｉ１） ③予習（120分） 　Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 　配布資料を再読して授業を振り返り、プリズム計画、通信基幹回線からの収集、外国衛星通信の傍受、特別収集サービス、CNE、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。
	9	①授業テーマ 　米国国家安全保障庁（３）：XKeyscore、メタデータ、暗号対策他 ②授業概要 　米国国家安全保障庁が構築したXKeyscoreシステム、メタデータ分析、暗号対策の概要、英国のオンライン秘匿活動の概略について、説明できるようになる。（Ｃ１・Ｅ１・Ｉ１） ③予習（120分） 　Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 　配布資料を再読して授業を振り返り、XKeyscore、宝地図、メタデータ分析、暗号対

		策、英国オンライン秘匿活動、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。
	10	①授業テーマ 　米国国家安全保障庁（４）：テロ対策、サイバーセキュリティ他 ②授業概要 　米国国家安全保障庁によるテロ対策の一例としてオサマ・ビンラディン対策の実態を考察した上で、テロ対策やサイバーセキュリティ対策、更にコンピューターネットワーク作戦におけるシギントの役割を説明できるようになる。（Ｃ１・Ｅ１・Ｉ１） ③予習（120分） 　Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 　配布資料を再読して授業を振り返り、テロ対策、サイバーセキュリティ対策、コンピューターネットワーク作戦、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：マーク・マッゼッティ『CIAの秘密戦争』
	11	①授業テーマ 　イミントの発展 ②授業概要 　インテリジェンスの一分野であるイミントの発展過程を理解した上で、米国の有人偵察飛行機と写真偵察衛星の発展、及び国家偵察局の概要を説明できるようになる。（Ｃ１・Ｅ１・Ｉ１） ③予習（120分） 　Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 　第二次世界大戦後の米国の情報需要、有人偵察飛行機、イミント衛星、国家偵察局、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：ジェフリー・リッチェルソン『スパイ衛星』
	12	①授業テーマ 　イミントの現状 ②授業概要 　米国のイミント機関・国家地理空間諜報庁NGAと我が国の内閣衛星情報センターの現状を理解した上で、画像偵察衛星（光学、レーダ）、民間商用衛星、有人偵察機、無人偵察機等で構成される米国イミントシステムの全体像を説明できるようになる。（Ｃ１・Ｅ１・Ｉ１） ③予習（120分） 　Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 　配布資料を再読して授業を振り返り、国家地理空間諜報庁、情報収集衛星、有人偵察機、無人偵察機、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：リチャード・ウィッテル『無人暗殺機ドローンの誕生』
	13	①授業テーマ 　マシント（計測・特徴諜報） ②授業概要 　インテリジェンスの一分野であるマシントの概要を理解した上で、核爆弾とミサイルの爆発・発射探知と性能評価、潜水艦の探知におけるマシントの役割を説明できるようになる。（Ｃ１・Ｅ１・Ｉ１） ③予習（120分） 　Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 　配布資料を再読して授業を振り返り、マシント、核爆弾とミサイルの探知、潜水艦の探知、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。
	14	①授業テーマ 　インテリジェンスの諸論点 ②授業概要 　担当教員の実務経験を踏まえて、一般には議論されていないインテリジェンスの重要な諸論点を講義します。 　インテリジェンスについての基本的諸論点、インテリジェンスの国際関係、民主主義国家におけるインテリジェンスの統制管理、インテリジェンスにおけるイデオロギーの

		役割、インテリジェンスと国家論について、その要点を説明できるようになる。（C１・E１・I１） ③予習（120分） 　Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 　配布資料を再読して授業を振り返り、インテリジェンスに関する基本的論点、国際関係、統制管理、イデオロギーの役割、国家論、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：ラインハルト・ゲーレン『諜報・工作 ラインハルト・ゲーレン回顧録』
	15	①授業テーマ 　総括 ②授業概要 　半年間の授業を総括します。授業内テストを実施します。内容は正誤問題と論述問題とします。（C１・E１・I１） ③予習（120分） 　授業での配布資料と講義ノートの全体を読み直す。 ④復習（120分） 　ポータルで配信する正誤問題の正解と自分の解答を対比して誤りがあれば、授業配布資料と対比して理解の誤りを正す。
関連科目		インテリジェンス論１（RMGT3527）と密接に関連する。 その他、インテリジェンス概論（RMGT1305）、社会安全政策論（RMGT3521）テロ対策論（RMGT3528）、安全保障論１（国際安全保障）（RMGT3551）、比較宗教・文化論（RMGT3553）、安全保障論２（国家安全保障）（RMGT3554）、ストラテジー（RMGT3555）、外交史（RMGT3556）、国際テロリズム論（RMGT3558）、情報システム論（RMGT3576）とも関連する。
教科書		特になし。事前にパワーポイント資料をウェブ配信します。
参考書・参考ＵＲＬ		（下記の参考書は、概ね図書館に収蔵されている。） ・吉野準『情報機関を作る』（文春新書、2016年） ・エドモンド・スー・ホー（豪甦）『NOC』（中央公論新社） ・黒井文太郎『日本の情報機関』（講談社新書、2007年） ・袁翔鳴『蠢く！中国「対日特務工作」㊙ファイル』（小学館、2007年） ・ニコラス・エフティミアデス『中国情報部』（早川書房、1994年） ・ハーバード・ヤードレー『ブラックチェンバー』（荒地出版社、1999年） ・柏原竜一『インテリジェンス入門』（ＰＨＰ研究所、2009年） ・東條由布子編『大東亜戦争の真実』（東條英機の宣誓供述書）（ワック株式会社、2005年） ・瀬島龍三『大東亜戦争の実相』（PHP研究所、1998年） ・吉川猛夫『私は真珠湾のスパイだった』（毎日ワンズ、2015年再出版） ・渡辺惣樹『誰が第二次世界大戦を起こしたか』（草思社、2017年） ・ハーバート・フーバー『裏切られた自由』（上下）（草思社、2017年） ・ジェイムス・ラスブリッジャー、エリック・ネイヴ『真珠湾の裏切り』（文芸春秋、1991年） ・ロバート・スティネット『真珠湾の真実』（文系春秋、2001年） ・茂田忠良『米国国家安全保障庁の実態研究』（警察政策学会資料第82号、2015年） ・茂田忠良『米国における行政傍受の法体系と解釈運用』（警察政策学会資料第94号、2017年） ・マーク・マッゼッティ『CIAの秘密戦争』（早川書房、2016年） ・ジェフリー・リッチェルソン『スパイ衛星』（光文社、1994年） ・リチャード・ウィッテル『無人暗殺機ドローンの誕生』（文藝春秋、2015年） ・中西輝政『日本人としてこれだけは知っておきたいこと』（ＰＨＰ新書、2006年） ・佐藤優『日本国家の神髄』（産経新聞社、2009年） ・ビクター・オストロフスキー『モサド情報員の告白』（阪急コミュニケーションズ、1992年） ・ラインハルト・ゲーレン『諜報・工作　ラインハルト・ゲーレン回顧録』（読売新聞社、1973年）
連絡先・オフィスアワー		■　連絡先　開講時に告知します。 ■　オフィスアワー　水曜3限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントをとることにより研究室で対応します。
研究比率		■　危機管理領域との対応 　災害マネジメント０％；パブリックセキュリティ４０％；グローバルセキュリティ４０％；情報セキュリティ２０％

	■　危機管理と法学のバランス 危機管理学９５％；法学５％

戻る